

## 第24回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成30年11月5日（月） 14：59－17：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、竝木委員、藤井委員、  
山崎委員

(2) 有識者

常田 国立天文台長

(3) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、行松審議官、須藤参事官、高倉参事官、山口参事官

(4) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

藤吉課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

国際宇宙探査センター

佐々木センター長

宇宙科学研究所

藤本副所長

4. 議事要旨

(1) 太陽系探査科学分野プログラムについて

事務局から、資料1及び資料2に基づき、前回の議論におけるポイント及び前回会合後に委員から提出された意見を踏まえて修正したとりまとめ案について説明があった後、とりまとめ案は、修正の意見なく、小委員会として了承された。

(2) 工程表の改訂について

JAXAから、資料3及び資料4に基づき、宇宙科学・探査と国際宇宙探査に関する平成30年度の取り組み状況について報告があった後、工程表の項目25・27の「平成30年度末までの達成状況・実績」や「平成31年度以降の取組」について意見交換を行った。本件は、引き続きメール等も活用して議論していくこととなった。

工程表の改訂についての具体の議論においては、委員から、以下のような意見等があり、引き続きメール等も活用して議論していくこととなった。

○平成30年度の取組について、国際有人宇宙探査では技術の取組だけでなく科学の取組についても記載すべき。

○平成31年度以降の取組では、政策として、プロジェクト化に向けたプロセスにおいて、フロントローディングという新しい考え方を導入することや、MMXについて、「平成31年度にプロジェクト化する」あるいは「2024年度打上げを目指す」といった記述は含める必要があるのではないか。

(3) 科学探査プログラム策定に向けた論点等について

事務局から、資料5に基づき説明があった後、今後の議論の進め方等の考え方について確認を行った。

委員から、以下のような意見等があったが、議論の時間が十分取れなかったため、次回会合で、引き続き議論することとなった。

○「宇宙科学・探査」という用語は適切か。

○策定するプログラムで想定するスパンや、プログラムの見直しの仕組みについても整理する必要があるのではないか。

○プログラム化に関して、コミュニティへの普及や意見聴取の機会が必要ではないか。

以 上